

教育委員会（ 10月 ）会議録（要点筆記）						
招集年月日	令和 6年10月30日（水）					
招集の場所	白馬村役場 2階 庁議室					
開閉会の日時 及び宣言	開会	令和 6年10月30日（水）午後 1時29分				
	閉会	令和 6年10月30日（水）午後 2時32分				
出席委員	職名	氏名	職名	氏名	職名	氏名
	教育長	横川 秀明	教育長職務代理者	幅下 守	委員	松沢 亨
	委員	武田 弥生	委員	服部 知子		
事務局	教育次長	横川 辰彦	生涯学習課長	松澤 宏和	子育て支援課長	内山 明子
	教育係長	今井 志保				

### 会議の要旨

#### 1 開会

[教育長]

開会を宣言した。

#### 2 令和6年9月定例会の会議録について

[教育長]

異議なく承認された。

#### 3 報告

##### ○教育長報告

10月3日に北小で教育課程研究協議会を行った。1年生を対象にした音楽の授業参観。安曇、松本地区の音楽の先生が50人ほど集まり公開授業と研究協議をした。授業が終わったところで子どもたちが「もう終わりの」という感想を言った。本当に楽しい授業をやれば、子どもたちは、もっと授業をやりたいということに感動した。ただ教育課程研究協議会については、疑問を持っており、該当するクラスだけが授業で、あとのクラスは全て休みの体制をとっている。これはいかがなものかと、中信教育事務所に話した。来年度以降、どういう形にするか考えていきたいと言われた。

10月4・5日に、全国草原サミット・シンポジウムがあった。全国から草原を持つ市町村が集まり、小谷の萱場を見学して意見交換をした。白馬に草原はないが、湿原がいくつかある。どう保全をしていくか意見交換をすることができた。

10月12日に、あそびまなびフェスをスノーハープで行った。子どもたちに大変好評だった。

10月17・18日に、全日本選手権のジャンプ大会が開催された。

10月25日に諏訪で行われた県の市町村教育委員会連合総会、研修会に参加した。

##### ○教育次長報告

部活動地域移行で、17日に小谷村と合同で県の保健厚生課、中信教育事務所の担当者から、補助事業などの説明を受けた。小谷村でも指導者などの人材確保に苦慮している。国では地域移行に関する様々な取り組みに10割補助を行うので、積極的に進めてほしいということだった。

児童生徒のスキー場の利用について、15日に索道事業者協議会と懇談し、今年度のスキー場利用については100円値上げして、750円を村が負担することになった。

10月22日に村内スキー学校の校長先生と、今シーズンのスキー教室開催日程やインストラクターの報酬について懇談した。ここ数年、インストラクターの報酬も高騰しており、このあと統一単価を提案していただくことにな

っている。

南小のかま飯集会在22日に行われた。今年度は北アルプス山麓おむすびプロジェクトの一環と位置づけて、地域振興局から新米を提供していただいた。

教員住宅の解体工事の進捗は、建物内外のアスベスト除去が今月中に完了する見込みで、11月からは躯体の解体工事に入る。降雪前の解体完了を目指している。

中学校のタブレットの更新では、共同調達で選定された富士電機と、25日に仮契約を締結している。本日午前中に臨時議会が開かれ、契約について議決されたので本契約となった。台数は予備機を合わせて、生徒用の192台を更新する予定。

#### ○子育て支援課長報告

10月1日に、令和7年度の保育園とサンライズ、ファミリアの入園説明会があった。今月いっぱい申し込みを受けている。

#### ○生涯学習スポーツ課長報告

10月8日に、スキー選手育成会の総会を開催した。スキー選手、コーチ、スキー産業の発展のための組織である。

10月17から20日まで、全日本のスペシャルジャンプとノルディックコンバインドの競技を行った。北海道と交互にやっている大会。

ワールドカップのジャンプとクロスカントリーを7年ぶりに白馬のジャンプ台で予定していたが、協賛金が集まらず、来シーズンの開催はなくなった。

10月19日に、青少年村民大会があり、約100名が参加した。

10月23日には、北安曇郡のスポーツ祭を行った。約80名の参加で、グリーンスポーツで開催した。

#### ○学校の報告

10月21日の校長教頭園長合同会議の報告に基づき、教育係長が報告した。

[委員]北小も南小も児童が蛍光灯を破損、窓ガラスを破損とあったが、児童にケガはなかったか。

[教育係長]学校からケガはなかったと報告を受けている。

[委員]高校受験が変わるのか。

[教育長]今まで前期試験は、面接と調査書だけだったが、学力テストを始めるところもある。だが、大幅に変わるわけではない。定員数の割合も昨年度と大きく変わってない。学力テストを入れるため、独自で作った問題を受験させる学校も出てきた。

[委員]学校の受験に対する面談時期が遅い。受験に対して質問があっても、なかなか先生と会えないし、聞けない。面談を早期の9月ぐらいにできれば、保護者としては嬉しい。夏に3者面談もあるが、受験のことには一切触れない。学力による志望校を示されたのは12月ごろだった。

[教育長]志望校調査の1回目は、夏休み前後で人気校に集中する結果である。2回目が1月の始めにあり、それは12月の懇談をした後で、正式に保護者も生徒も何々高校へ行きたいと出してくる。ただ懇談は頻繁にやる生徒も居るし、夏以降12月までやらない生徒も居る。白馬中は、2学期制にしたので前期の結果が調査書に載る。後期の結果ではないので、12月にやったとしても後期の成績が載るわけではない。学校テストは何回かやっている。学力についての考察は、白馬中もどこの中学でもしっかりやっている。

[委員]塾の先生から、3学期制のテスト範囲と2学期制のテスト範囲は広さが違うから、白馬中は前期後期システムなので、偏差値が非常に読みづらく方向性も立てづらいいと言われた。

[委員]3年生の4月か5月に、進路担当の先生から、こういう高校があると保護者会で話してもらった。それはわかりやすかったが、個人的な面談は遅かった。

[教育長]成績が2回しかつかない問題は、前後期にした3年以上前に議論して、保護者と生徒に説明している。

[委員]不安に思っている保護者も多いので、希望があれば懇談できるような形にしてほしい。

部活動地域移行に関して、スポーツでトップを目指したい生徒と体作りをしたいくらいの生徒の中で、学校のやっている部活は、試験前の休みもちゃんと守られており、非常に間を取れている。地域移行という形で、運動を気軽にできなくなる生徒が増える心配がある。そういったフォローはできているのか。みんなが平等に運動できて、楽しい学校生活を送れるようにしてほしい。

[教育次長]いろいろ懸念はあるが、一番は、今までは学校の部活がきっかけでスポーツに親しめていたという部分がある。それがなくなって、スポーツしなくなる子が増えるのを、みんな心配している。学校の部活以外の社会体育のサークルにも参加できれば、子どもの選択肢が増える。興味を持ったことにトライできる環境は必要だが、こういう小さい村では難しい。

[委員]そもそも、どうして地域移行を押し進めなきゃいけないのか。

[教育長]国からの指示ではあるが、一番は先生方の負担を減らすため。

[生涯学習スポーツ課長]学校の部活にあるスポーツが社会体育にはないものもある。社会体育のスポーツの指導者と相談をしながら進めているが、現在、学校でやっているスポーツが社会体育の中で全部は用意できない場合も生じる。

[委員]信大付属の中学生から来年からは部活が全てなくなることが決定していると聞いた。中学生は、まだ子どもである。その子たちが、部活をやらずに家に帰って、液晶ばかり見ている状況がもっと増えるのではないか。先生たちも大変だとは思いますが、何かしらそれに代わるものは必要。それによって自分は何になりたいか、何に興味があるのか、進路を含め、子どもの視野が広まると思う。

[委員]担当課はどこ。

[教育長]学校関係なので教育課だが、外部指導者の人選とか社会体育となるとスポーツ課。なので、2つの課が連携しながらやっている。でも、課題が山ほどあり、簡単に解決できない市町村が多い。

[委員]部活動地域移行により、全然動けない子どもが増え、どうするかと問題になりそう。違和感がある。

[教育長]松本が先行してやっているが、外部指導者が比較的いるからできるのであって、県内多くの市町村は、それが大きな悩みとなっている。

#### ○保育園の報告

10月21日の校長教頭園長合同会議の報告に基づき、子育て支援課長が報告した。

## 4 議事

### ○承認第27号 令和7年度校長昇任の内申について

[教育次長]来年度の校長昇任で推薦が上がってきたもの。期限があったので、教育長に確認をいただき内申した。

・全員賛成で承認された。

### ○承認第28号 区域外就学について

[教育次長]大町市に転出したが、母親の勤め先が白馬村で、年度の途中でもあり、今年度3月までの区域外就学について認めた。

・全員賛成で承認された。

### ○議案第69号 白馬村子ども第三の居場所事業補助金交付要綱一部改正に対する意見について

[子育て支援課長]当初、開設が決まった時点で、この補助金要綱を作ったが、実際の交付時期になり、不足分について改正したもの。子ども第三の居場所の開設事業補助金は、実収支額と250万円とを比較して少ない額と文言を追加した。運営事業補助金は、当初、運営不足分の200万円だったが、人件費の高騰等もあり660万円に改正したい。最初は、月に13万円ぐらいの不足分だったが、実施団体の予定していた報酬額では人が集まらず、増額して、最新の見積もりでは、不足額55万円×12か月で660万円となった。

・全員賛成で可決された。

○議案第70号 白馬村スポーツ功労賞等の被表彰者並びに白馬村スキースポーツ育成振興奨励金の支給対象者に対する意見について

[生涯学習スポーツ課長]全国大会で1から3位までに入った選手7名に、村の支給要綱に基づき、スポーツ功労賞を授与したい。1名が夏のマウンテンバイク、残り6名が冬の大会。金額は4万円。

夏のオリンピックに白馬村で初めて出場した選手に、特別功労賞として10万円を授与したい。

全国大会の入賞者14名に、1人1万円のスポーツ奨励金を授与したい。対象はアルペン、クロス、ジャンプ、スノーボード。11月20日にウイングで授賞式を行う。

・全員賛成で可決された。

## 5 その他

・令和6年度全国学力・学習状況調査結果について

[教育係長]白馬村は前年度と比較すると、正答率が落ち気味。だが、今年度も全国平均と比較するとほぼ同程度の結果。昨年同様、大きな二極化が見られる状況。

南小は、国語も算数も長い文章を読み取ることが苦手。全般的に南小は、さほど二極化はしていない。身近な教材として学校の廊下の面積を測ったり、実生活に即した学びも行っている。北小は二極化が激しい。どう知識の定着化を図り、思考・判断・表現を意識させるか、その子に応じた学びを取り入れていきたいと考えている。中学校は、自分自身の学びを深めることが大切である。白馬村は良い地域の材がたくさんあるので、今後も学びに取り入れていきたいと考えている。

この後、ホームページで結果を公表する予定である。

[委員]南小も中学も長文解釈が苦手と同じことが書いてある。小学校で理解できないまま中学へ行っているように思える。もう少し何かやりようがあるのでは。もったいないという感想である。

[教育長]そのとおりで、課題がなかなか解決できてない。途中経過の回答を求めた問題が出てきたときに、そこまでたどり着けなかったり、そこでやめたり、最後までいかないという感じを受けた。長文読解が二極化の大きな原因になっているように思えた。

・教育委員の異動報告(池田町・小谷村)

[教育次長]池田町と小谷村から教育委員の再任の報告が届いている。

・白馬村子ども第3の居場所について

[子育て支援課長]12月5日に開所式、そのあと内覧会。当初の対象者は、そらいろに行っている子どもの中で、保護者同意と指導員推薦の23名、あとは学校から上がってきた児童だったが、不登校で学校に行けない児童や個別に関わっている児童も対象としたい。

[委員]第3の居場所のスケジュールは。

[子育て支援課長]基本は学校が終わった2時くらいから夕方まで。内容は集団で何かをすることもあるし、それぞれ個々に合わせて課題をやることもある。不登校児童に合わせて、朝からは無理だが、昼からとか変更の可能性はある。動き出してみないとわからない。子ども主体の居場所である。

・11月の日程について

[教育次長]資料により説明。

次回定例会日程案

令和6年11月27日(水)午後1時半から。

総合教育会議

令和6年12月4日(水)午後1時半から。

署名欄	
教育長	
教育長 職務代理者	
委員	
委員	
委員	